355名が列席し新年の門出を祝う

３年ぶり、華やかに賀詞交歓会を開催

内発協が３年ぶりに開催した賀詞交歓会

平野正樹会長の挨拶に耳を傾ける列席者

一般社団法人日本内燃力発電設備協会（平野正樹会長）では１月12日（木）夕方から、東京・目黒のホテル雅叙園東京において、３年ぶりとなる「令和５年の新年賀詞交歓会」を開催しました。正会員・賛助会員を始めとして、当協会の委員会委員、経済産業省・総務省消防庁・国土交通省の三省庁などからの来賓、長年にわたり相互交流を続けている親睦団体からの出席者、主催者の事務局職員などを合わせて355人が出席して旧交を温めました。

新春年頭の挨拶に立った平野正樹会長は「令和５年は、大正12年に発生した関東大震災から100年目に当たります。防災への国民の意識が一層高まっていくものと思われます。社会の要請に応えて非常用自家発電設備の普及促進と確実な運用に努めると共に、国民の期待に応えて安全・安心の確保に力強く取り組んで参ります」と抱負を語りました。

続いて、三省庁の来賓が登壇して挨拶を行いました。経済産業省大臣官房審議官の笹路健氏、総務省消防庁予防課長の白石暢彦氏（代理・設備専門官の千葉周平氏）、国土交通省の建築物事故調査・防災対策室長の村上慶裕氏がそれぞれの立場から祝辞を述べました。伊藤拓実副会長（㈱小松製作所）の発声で全員が乾杯を行い、懇親に移りました。約２時間後、江藤陽二副会長（デンヨー㈱）の音頭で三本締めの手締めを行い、中締めとなりました。

一般社団法人日本内燃力発電設備協会

会　長　平野（ヒラノ）　正樹（マサキ）

３５５名が集い、華やかに開催された賀詞交歓会

改めて明けましておめでとうございます。日本内燃力発電設備協会の会長の平野正樹です。

当協会を代表し、令和５年の年頭に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、経済産業省から笹路審議官様、総務省消防庁から千葉理事官様、国土交通省から村上室長様をそれぞれご来賓として迎えて、また当協会の会員会社をはじめとする多くの皆様方にご列席いただきまして、３年ぶりに新年賀詞交歓会を開催することができました。コロナウイルス感染症が未だ終息を迎えていない中で、ご列席いただきました皆様方には心より感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、ロシア軍によるウクライナ侵攻を背景に、エネルギーの供給不安や価格高騰が生じ、世界経済に甚大な波及的影響がもたらされました。ウクライナ紛争は未だ解決の糸口が見えない状態が続いております。特にロシア軍による重要なインフラである電力施設などへの攻撃で、紛争地域では停電が発生しており、厳冬が続く中で暖を取ることもできない現地の人びとの様子を見て、電力の安定供給のありがたさを痛感しました。

日本においても昨年は、地震や台風、雪害などの

自然災害による停電が数多く発生し、停電発生時に電力の安定供給に貢献する非常用の自家発電設備の重要性が再認識されました。

令和５年は、大正12年９月１日に甚大な被害が発生した関東大震災から100年目に当たります。防災に対する国民の意識が一層高まっていくものと思われます。

現代社会のあらゆる領域で、電力の安定供給が平常時・非常時を問わず最重要課題とされています。当協会としましては、社会の要請に応えながら積極的な事業展開を図っていくとともに、非常用の自家発電設備の普及促進と確実な運用に努めて参りたいと存じます。さらに国民の期待に応えて安全・安心の確保に力強く取り組んで参りたいと存じます。

引き続き、ご列席の皆様には格別なご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新年こそは、ウクライナ紛争が平和裡（へいわり）に解決されますこと、コロナ感染症が終息すること、そして災害のない穏やかな一年になりますことを心より願っております。

結びとしまして、新年が皆様にとりまして、干支の兎（えとのうさぎ）のように跳躍できる一年となりますことをお祈りしつつ、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

本日はご列席いただきまして誠にありがとうございます。

経済産業省
商務情報政策局　産業保安グループ
大臣官房審議官　笹路（ササジ）　健（ケン）氏

新年明けましておめでとうございます。

昨年はロシアのウクライナ侵攻をはじめとし、これまでの思考の延長線上にはない新たな変化が多々発生し、皆様の経営環境においても変化が多く、ご苦労の絶えなかった１年であったかと存じます。

新型コロナウイルスへの対応、ウクライナ情勢を起因とした国際政治の変化、及びエネルギー市場の動揺。国内においては３月の福島県沖地震、９月の台風14、15号に伴う災害、12月の大雪被害等々、惰性で理解・対処することは不可能な大変化が、社会を支配しつつあるのではと思います。

その現実に逃避せずにどう果敢に取り組むかという視点が、今後の我が国の社会・経済において非常に重要ではないかと考えております。変化を恐れ身を窄（せま）めていると危機を適正に評価出来ず、さらにリスクを高める結果となってしまいます。

変化を恐れない文化・土壌を構築することが組織においても個人においても大事なことと思います。そして機敏に社会に対応し身の処し方を一人一人が深めてゆく、個々の企業が深化してゆくことが大事かと思います。

内発協会員の皆様が携わっておられる自家用発電設備、特に非常用の発電設備につきましては、まさに状況が変化し、予期せぬ状況に対し果敢に立ち向かうための砦であると思います。災害の激甚化に対し、正しく保守点検された自家用発電設備がその役割を果たすことが、リスク適応力を高めることに他ならないはずです。自家用発電設備を支えている皆様の技術そして人材こそが日本社会の営みを支えている最も重要な部分だと考えております。

昨年、電気事業法を改正し、ＡＩやＩｏＴなど最先端の技術を用い、経営トップのコミットメントも示し自立的に高度な保安を行っている事業者を国が認定し、その事業者には届出や審査を一部省略するなどの制度を導入しました。

従来より推進しております「スマート保安」行政の一環である訳ですが、今後いわゆる「スマート認定事業所」の増加により、これらが安全・安心の拠り所となり、また生産性を高め経済発展のエネルギーに繋がるものと確信しております。

技術と人は車の両輪です。この会場にご参集された皆様が日々業務に研鑽されることが、激動化する

国際社会における日本社会のリスク対応力を高め、成長し前進してゆくための要だと思います。

是非、本日は旧交を温めネットワークを強めて頂き、皆様のビジネスの成長促進、引いては日本経済の発展に繋げて頂きたい。そして私共も皆様方と一緒にこれからも国民の安全・安心のために様々な施策を実施していきたいと考えております。

本日は本当におめでとうございました。

総務省
消防庁　予防課
設備専門官　理事官　千葉周平（チバ シュウヘイ）氏

総務省 消防庁 予防課の千葉でございます。

本来であれば、予防課長の白石がご挨拶を申し上げる予定でございましたが、他の公務により出席することができませんので、預かってまいりました挨拶を、私から代読させていただきます。

『皆 様、明けましておめでとうございます。
令和５年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

一般社団法人日本内燃力発電設備協会の皆様方におかれましては、平素から消防用設備等の非常電源である自家発電設備の認証や地震時の被害状況調査など消防行政に深いご理解と多大なご貢献をいただき、心から感謝を申し上げます。

消防法令における自家発電設備の点検基準の合理化などに関する検討へのご協力や、自家発電設備の技術者講習や消防関係団体が開催している研修会等において、自家発電設備の点検基準に関するご説明をいただくなど、多くのご協力をいただいていることにも重ねてお礼を申し上げます。

さて、昨今を振り返りますと、静岡県熱海市の土石流災害をはじめ、全国各地で多数の災害等が発生し、甚大な被害をもたらしました。

また、昨年３月に発生した福島県沖の地震や９月に発生した台風14号及び15号、12月の大雪など、日本各地で、長時間の停電を伴う様々な災害が相次いで発生しました。

このような状況を踏まえますと、消防用設備等を火災時に滞りなく作動させるだけでなく、自然災害による停電に備えるためにも、自家発電設備をはじめとした非常電源の設置推進や維持管理の徹底が今後益々重要になります。貴協会の皆様方におかれましては、引き続き、国民が安心して暮らせるよう、より一層のご支援をいただきますようお願い申し上げます。

終わりに、一般社団法人日本内燃力発電設備協会の今後益々のご発展とご参集の皆様方のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和５年１月12日

消防庁予防課長　白石　暢彦』

代読でございます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

国土交通省　住宅局　建築指導課
建築物事故調査・防災対策室
室　長　村上慶裕（ムラカミ ヨシヒロ）氏

皆様、新年明けましておめでとうございます。

貴協会の皆様方には、日頃から国土交通行政・建築住宅行政に対し格別のご協力ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、非常用自家発電設備の出番でもある災害については、地球温暖化に伴う頻発・激甚化が危惧されており、我が国も2050年カーボンニュートラルを宣言し、一昨年には新たな温室効果ガス削減目標が掲げられました。

こうしたことを受けまして、国土交通省では、建築物の省エネ性能の確保・向上を一層進めるため、昨年の通常国会において建築物省エネ法を改正し、2025年には住宅を含めて原則すべての新築建築物に対して、省エネ基準への適合が義務化されます。さらには2030年までに省エネ基準をＺＥＨ・ＺＥＢの水準に引き上げることを目指すとしております。

これまでも貴協会において取り組まれている自家用発電設備については、電気と熱の効率的な利用を図り、省エネ性能の向上にも寄与してこられたところですが、さらに高い削減目標の達成に向けて、引き続きのご尽力をお願いいたします。

また、昨年は、台風14号・15号や年末の大雪などの災害が発生しましたが、機能継続を図る観点から非常用発電設備の重要性が認識されたことと思います。

貴協会におかれては、被災時における非常用発電設備の機能維持に関する調査報告を実施頂いておりますことに、敬意を表させていただきます。

特に、今年は関東大震災から100年の節目の年でもあります。非常用発電設備については、災害時のいざという時に、確実に機能を発揮することが求められるものでありますので、細心の注意をもって、その製造・アフターフォローに当たっていただくことが非常に重要かと思います。益々その重要性が増していく中で、会員各位の皆様には、万全の対応をよろしくお願いいたします。

最後に、貴協会及び会員各位の益々のご発展と皆様方のご健勝・ご多幸を祈念して、私のあいさつとさせていただきます。

本日はおめでとうございます。

乾杯の挨拶　副会長　伊藤（イトウ）　拓実（タクミ）氏

昨年は平野会長のご挨拶のとおり、ウクライナ侵攻に始まり、それに伴うエネルギー供給危機、加えて外国為替市場では急速な円安が進行しています。企業活動にも少なからず影響があると思います。今年はエネルギー問題が非常にクローズアップされる一年になると推察致します。デジタル技術によって社会や生活のスタイルを大きく変化させるDX（Digital Transformation）の推進による企業のビジネスモデルの変化は自家発業界へも波及しています。問題解決に向けて努力して卯年にふさわしい飛躍の一年にしましょう。「乾杯ーっ！」

中締めの挨拶　副会長　江藤（エトウ）　陽二（ヨウジ）氏

平野会長を中心として全会員が結束することで自家発業界の絆が深まっていくと存じます。内発協の会員の一員として自家用発電設備の安全性と信頼性の確保に向けて頑張って参りましょう。ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。３年ぶりの賀詞交歓会ですので、感謝を表す手締め三本締めを行います。掛け詞（ことば）「よーっ！」には祝おうの意味がございます。今年一年を祝うお気持ちでご唱和下さい。内発協のますますの発展と会員各社のますますのご隆盛、ご列席の皆様のご健勝を祈念して、ご唱和下さい。「よーっ！（手拍子）」